青年大会後、各教区で相次いで報告会など開催

北海道

全国青年大会報告会①

八月二九日、札幌聖ミカエル教会にて、大会参加者自身の呼びかけで開かれ、二四名が参加。道外の大学に在学中の二名を中心に、長崎での貴重な経験と平和への思いを発表した。この日稚内で行われていたワークキャンプから、主教様はじめ数名の青年が駆けつけた。（車で約五時間の道のり。）

札幌市内４教会を中心とした青年集会の発足

初回は九月一八日聖マーガレット教会にて行われた。ボーリングで程良く心と体をほぐした後、大町司祭司式・説教による夕の礼拝。あつあつの鍋料理を囲んで歓談し、卓球大会やゲームをして交流を深めた。第二回目は札幌キリスト教会を会場に一一月二七日、まず「聖書を読む会」。続いて夕食のカレーを参加者で作り、夜中まで交わりを深める予定。今後このペースを保ち、第三回目は札幌聖ミカエル教会にて一月に行うと予想される。

全国青年大会報告会②

一〇月二九日、教区会館にて、北海道教区の宣教活動推進部・正義と平和小委員会が主催する「平和を考え祈る集い」に招かれての報告会となった。

報告後のフリー・トークの時間、戦中の教育を受けた経験や満州からの引き揚げ経験を聞いた。さらに、戦地に行った人が実際に胴に巻いていた寄せ書き入りの日の丸を見せて頂くなど、青年たちにとっては新たに戦争の証言を受ける時にもなった。また、報告の聞き手にとっても青年たちが心から平和を願う姿勢に「新鮮なさざ波を感じた」と感想が述べられ、平和への取り組みを一緒にしたいという意見も出された。世代を超えた二四名の心の一致を経験した豊かな時となった。（北海道・札幌聖ミカエル／木村夕子）

東京

長崎での全国青年大会で、私たちは、長崎に「立ち」、本当にたくさんのことを感じ、考え、学んだ。そして、長崎から「発ち」、東京に「起つ」ことを決意した。しかし、今は、強い想いを持っているけれども、東京の、日常生活に戻り、時間が経つにつれてこの想いを忘れていってしまうのではないか・・・という不安を持つ者もいた。ということで、私たちは、共に想いを確認しあい、共に学び、考えることのできるネットワークをつくることによって、東京に起つことにした。

東京に起った私たちは、まず、集まり、次の四つについて決めた。

①「長崎から発ち、東京に起つ」新聞をつくる

②報告会を行う（一〇月二日に、神田キリスト教会にて開催。約三〇名が参加。）

③Tシャツをつくる

④情報交換の手段としてメーリングリストをつくる

新聞や報告会では、つたないながらも自分たちの言葉で自分たちの思いを伝えることができた。

そして、今、長崎から発って約三ヶ月。少しずつ当初の熱気がなくなっている気がしている。しかし、そんな今だからこそ、次に私たちが何をできるのか、考え、学び、行動していかなければならないと強く感じている。（東京・池袋／河崎真理）

北関東

北関東教区のリユニオンは、一一月二〇日、大宮聖愛教会にて行うこととなりました。青年大会から今までの思いを分かち合い、北関東に起つことを共に考えたいと思っています。（北関東・小山聖ミカエル／岸本望）

中部

【大会前のキャンペーン】

四月、教区青少年プログラム委員会では、全国青年大会に一人でも多くの青年を送り出し、様々な形で支え、そのことを教区全体で共有し、平和について考え、学び、感じる機会としたい、との思いから「青年を長崎へ！」キャンペーンを企画した。大会概要や委員会としての思い等を教区全体で共有できるようなチラシを作成した。また、青年大会のための祈りが作られた。また、今回は交通費が高額になるため、様々な人が参加できるよう、費用の面でも支えてほしい、と各教会に献金袋を配付した。

【各伝道区でのＰＲ】

新潟伝道区では、各教会や関係施設にＰＲを行った。

長野伝道区の青年たちは、大会への参加・不参加、世代などを越えて、たくさんの人が青年・青年大会・平和・・・につながれたらいいなと「青年を長崎へ！クッキー」を焼いて、プレゼントするため、また大会に向けてのＰＲ、カンパのお願い、それぞれの思いを伝えに六月以降毎週、可能な限り各教会をまわった。

愛岐伝道区では、チラシを作成し信徒会でアピール。七月にはビアガーデン」開いて、教会内外から世代を越えてたくさん集まった人々と、美味しくて楽しい交わりのときを持つことができた。

アピール時のカンパ、ビアガーデンの収益、各教会からの献金は、本当にいっぱいで、大会参加者への大きな補助となった。そこに込められた一人ひとりの温かくて熱い気持ちを感じた。

【大会後】

長崎に立った青年たちは、教区の祈りと支援を受けてここにいることを感じ、それにどう応えられるかと考え、この大会で感じた事、考えた事など、それぞれの思いをまとめて冊子にし、この大会を分かち合い、感謝の気持ちとしたい、ということになった。その報告書は既に完成。一〇月に平和をテーマに行われた教区研修会の中でも、二名が青年大会を通しての思いを発表させていただいた。

長野伝道区では、二つの教会でお話しする場を与えていただき、大会での思いを発表させてもらった。

京都

一一月五日、京都教区青年・夏の活動報告会を行い、一八名が参加。内容は「全国青年大会」「日韓青年キャンプ」「ＮＣＣ訪中代表団」の三本立て。それぞれの報告で共通して見えてきた《平和》について思いを分かち合い、これからの活動につなげる話し合いをした。（とまでは実際時間的に厳しかった。）

一〇月六日に行った「まったりミーティング」で出た案《共に祈る》をベースに、それぞれがいろんな場で祈りの時を持ちながら平和について考え、思いを分かち合っていこうという方向で進んでいきたい。（京都・奈良キリスト／武村紀美香）

今後もお礼の教会訪問を予定している。

夢中で走りぬけたアツイ夏だった。この企画が起こったこと、キャンペーンに関わった人がたくさんいたこと、新たな出会い、さまざまな思い・・・すべてが与えられたことでした。素晴らしい時を感謝します。（中部・上田聖ミカエル及諸天使／石田京子）

大阪

青年大会中、大阪の青年が集まったとき、この経験を教区に帰ったときにどう活かすかを話し合いました。参加者の中に教会学校に携わる青年が多くいたことから、この経験を子どもたちに伝えたい、わかちあいということになりました。そして、子どもたちと一緒にキャンプをしようということになりました。それを実行に移すため、何度か集まりを持ち、子どものキャンプを作りたいという思いを持った青年で、一〇月二九日～三〇日の一泊二日、プレキャンプを行いました。

学生、社会人、神学生、牧師など、総勢一〇人が集まり、来年のキャンプのことを話し合う良い時間となりました。今後の予定としては、このキャンプの反省会や、教会学校の先生方と共にキャンプを作っていくためのミーティングを考えています。他教区の皆さんも含め、これからもご協力よろしくお願いします。（大阪・石橋聖トマス／村上恵依子）